

脳性麻痺者の職業リハビリテーション ～全人的視点による取り組みから～

- 北澤和美（相模原市社会福祉事業団基幹相談支援センター 公認心理師）
- 中川亜矢子（相模原市社会福祉事業団相談支援事業所 精神保健福祉士）

身体機能の低下



精神疾患の併発



支援者との関係構築が困難



本人が本当に望むものは何か？

ライフストーリーから 真のニーズを探る



＜相模原市基幹相談支援センター＞

・相模原市 人口 725,642人

(2021年8月末時点)

・障害児者 人口 42,376人

(2021年3月末時点)





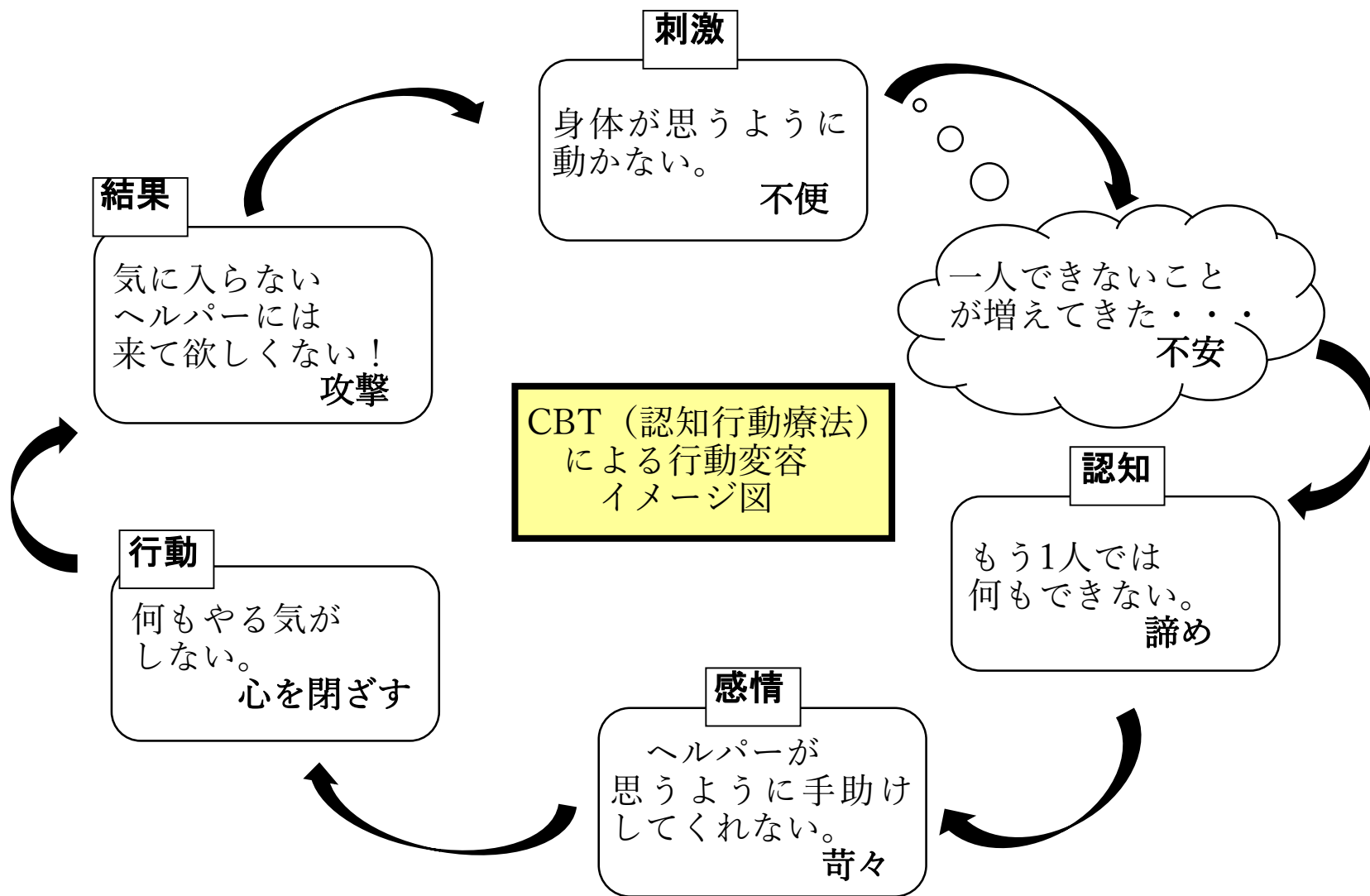
【事例紹介】

- ・50代 男性
- ・単身生活/脳性麻痺/鬱病

鬱病⇒意欲低下

⇒24時間ヘルパー支援開始

次第に気に入らないヘルパーへの暴言
ヘルパーの定着が課題となる



CBTによる行動変容イメージ(変化前)

【経過】入院(支援開始)

主治医 ⇒ 24時間支援は不要



＜退院後の支援目標＞

本人の希望中心の支援から医療と
福祉が連携した「リハビリ中心」の支援へ
の転換を図る

【経過】退院/チーム支援開始

毎日のように「死にたい」と暴れる本人と
それに優しく寄り添うヘルパーの姿

本人の希望通りに福祉サービスを調整しても
充足されないニーズが本人にあるのでは？



【経過】再アセスメント実施



ネガティブな感情に過剰に寄り添い
過ぎること ⇒ 自立の妨げに？



現状だけにアプローチするのではなく
本人のこれまでの人生(ライフストーリー)を
理解し尊重することが重要なのではないか

【経過】ライフストーリーから見えてきた本人

幼少時代から努力を積み重ね一般就労を
果たし社会人として自立した生活を手に入れた



病気で身体機能が低下し出来なくなってしまった



生きていく意味を見失ってしまった(失望)



「新たな人生の希望が欲しい」
(これが本人の真のニーズでは?)



【経過】再アセスメント後の支援目標

「できること」を増やしていくことで
自己肯定感を高める

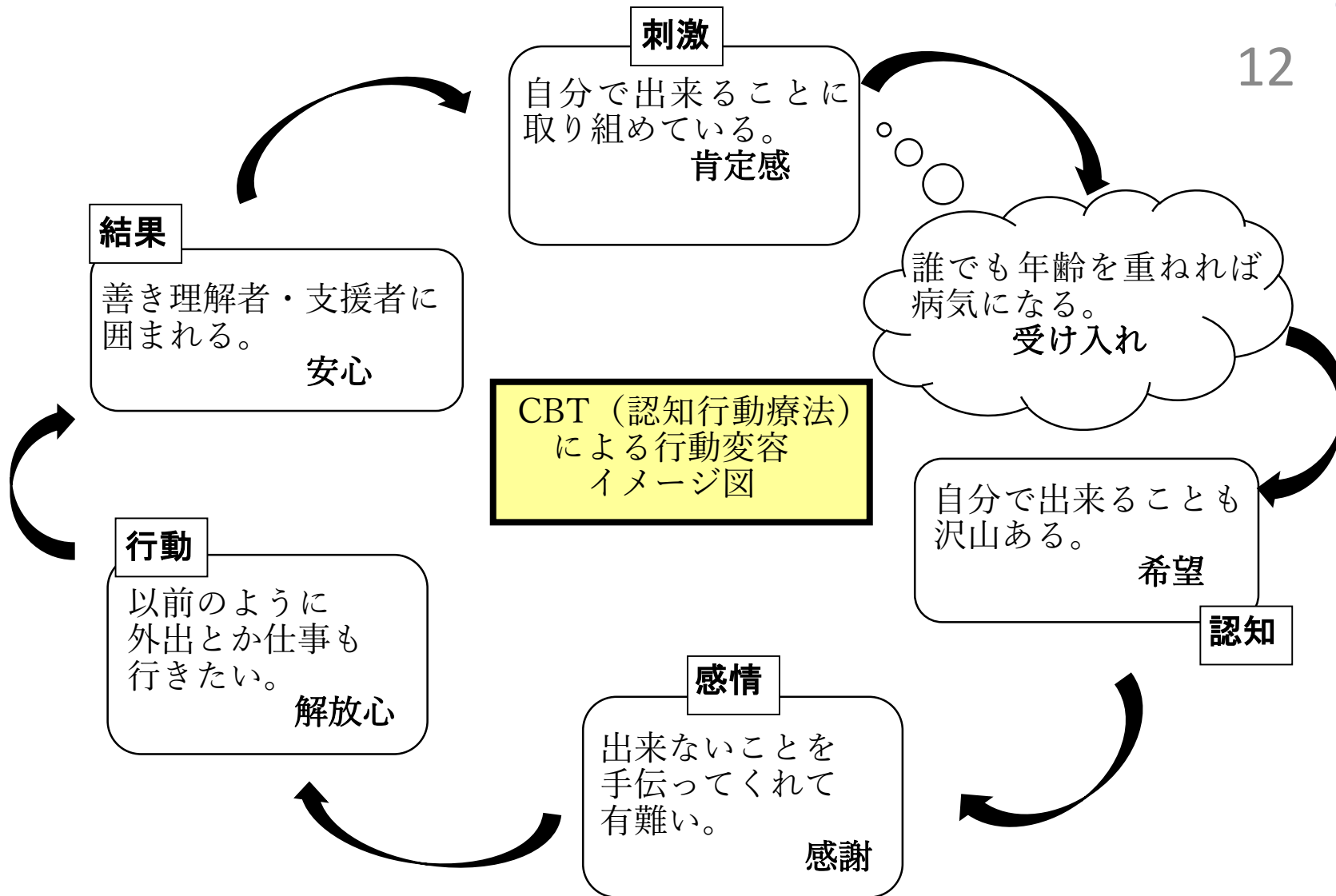


現状を受け止め人生と再び向き合い



本人が自ら生活に希望を抱けるよう
に支援を行う。





CBTによる行動変容イメージ(変化後)

【結果】

未だ精神状態が安定せず支援へ
了解性が不十分



「1人じゃいられない！空いてる時間を埋めてくれ！」

「(現在の支援について)俺は何も聞いていない！」

「俺に死ねっていつてるのか！」

現在も怒られ続けています……(涙)



【結果】

医療と福祉が全人的な支援目標を共有し、
各々の専門性を発揮した自立に向けての
関りを日々の支援の中に意図的に取り入れた



少しずつではあるが、本人に気持ちの
変化がもたらされている！

例えば・・・

近所のスーパーに車椅子ででかけたり・・・

マンションの廊下を車椅子で往復したり・・・

時にはご飯が食べられないはずなのに、ラーメンも食べちゃいます(笑)



【考察】

本人の言葉を全人的な視点で
再アセスメントしたら・・・。

「死にたい」 → 「生きたい」？

「雁字搦め」 → 「自由になりたい」？



【考察】

本人の希望



「生活も社会的にも自立してた自分に戻りたい」



本人が輝いていた就労時代に焦点を当て
それに向けた支援をしよう！



「職業リハビリテーション」を中心とした
リカバリー支援が本ケースの支援の根幹

【考察】

＜リカバリー支援の構造＞



- ・医療（訪問看護・リハビリ）
→主に身体的機能リハビリを担当
- ・福祉（相談福祉専門員・ヘルパー等）
→主に心理社会的リハビリを担当

本人のリカバリーを目標に医療と福祉双方の
支援の相互作用を用いて支援を行う

【考察】



「職業リハビリテーションは本来
総合的なリハビリテーションだ」(ジョージ教授)

本ケースは本人のライフストーリーから導き出した
「職業リハビリテーション」支援を主軸に
リハビリテーションの真意である「全人的復権」
にむけた取り組みであるといえる



相談支援の根幹である
「権利擁護支援」ともとれないだろうか

【今後について】

引き続き、本人の主張を本人の価値観や
ライフストーリーから紐解き、尊重し
本人らしいリカバリーを共に支援して
いきたいと思っている

